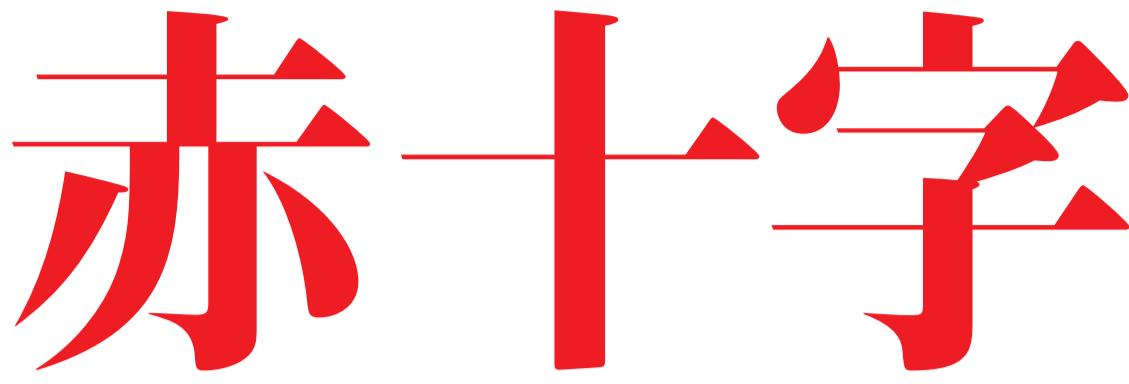


「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン



8

AUGUST 2020 NO.963

NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS
<http://www.jrc.or.jp>

令和2年8月1日(毎月1日発行)
赤十字新聞 第963号
昭和24年9月30日 第三種郵便物認可



わたしも赤十字 寄付での支援者

西 敦子 (にし・あつこ) さん 【p.4でご紹介】

特集

新型コロナウイルス感染症への不安を抱える中で起きた自然災害

「令和2年7月豪雨災害」の爪痕

人間を救うのは、人間だ。



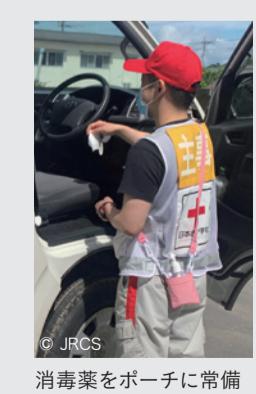
赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。





「令和2年7月豪雨災害」の爪痕

令和2年7月初旬、西日本から東日本にかけて広い範囲で猛烈な雨が襲いました。記録的な浸水深となった熊本県・球磨川の氾濫被害地域には、目を疑う光景が。新型コロナウイルス感染症への不安を抱える中での自然災害発生が、現実のものとなりました。



新型コロナウイルス禍の被災地支援

今回の救護活動は、感染予防策に細心の注意を払って実施しています。日赤救護班は熊本県の球磨川の氾濫により甚大な被害のあった人吉市を中心に、7月4日から活動を開始(熊本、福岡、佐賀、長崎、大分、沖縄、山口、広島、香川の各県より21班派遣/7月17日現在)。新型コロナウイルス感染症対策として全要員がサージカルマスクを着用、一人1つずつ消毒薬を携行してその都度手指を消毒し、使用する資機材や移動車もこまめに消毒。また被災地ではマスク・ビニール手袋・ウェットティッシュなど感染予防に有効な衛生用品を含んだ緊急セットの要望が高まり、被災地の日赤各支部の備蓄に加え、本社備蓄品の配布も行いました。



日赤救護班が訪問した避難所では、間隔を広げたスペースづくりによる新型コロナウイルス感染症対策を講じている(写真は人吉スポーツパレスの避難所)

被災地の声 (熊本県)

家から持て出されたのは、妻の遺影1つだけ



高橋康夫さん
(仮名・86歳)

「あまりに急だったので、家からは妻の遺影だけ持て出されました。妻は昨年7月に亡くなり、もうすぐ一周忌で集まろうと予定していたのに、こんなことになるなんて…。日赤のお医者さんが来てくださいました。診察していただきました。助かりました。ありがとうございます」



水害に備えて土台を高くしていたのに

宮原芳子さん (71歳)

「水害が多い場所だから、10年前に家を建てたとき50センチも土台を上げたのに水が入ってきた。71歳で吉に住んでいて、こんなひどい水害は初めて。一人暮らしなので自分で泥をかき出し、畳を出して水で洗って、と片付けをしていました。そうしたら長靴の中に泥水が入りこみ、いつの間にか足に擦り傷もできていた、足が真っ赤に腫れちゃって。お医者さんに診ていただけて安心しました」



不安だったけれど、今夜は安心して眠れそうです

土屋イツエさん (85歳)

「水がいきなり来ました。どんどん水かさが増して、もう助からないと思って、紙に、みなさんもう最後ですと書いたの。でも何とか命は助かりました。今日は足がキリキリ痛かった。不安だったけれど、お医者の先生に診てもらえてよかった。今夜は安心して眠れそうです」

「令和2年7月豪雨災害義援金」受付中!

義援金は全額、各地の義援金配分委員会を通じて被災された方に届けられます。

協力方法:

[1] 郵便振替によるご協力 (ゆうちょ銀行・郵便局)

口座記号番号 00110-8-588189
口座加入者名 日赤令和2年7月豪雨災害義援金

※ゆうちょ銀行の振込用紙の半券を受領証の代わりとして、寄付金控除の申請にお使いいただけます。
※窓口でのお振り込みの場合、振込手数料は免除されます(ATMによる通常払い込みおよびゆうちょダイレクトをご利用の場合は、所定の振込手数料がかかります)。

[2] 銀行振込によるご協力

①三井住友銀行 ②三菱UFJ銀行 ③みずほ銀行
詳しくは右下の二次元バーコードのホームページからご確認ください。

[3] 義援金は被災県支部でも受け付けています。

日赤各県支部にお問い合わせいただくか、日赤ホームページをご覧ください。

義援金と活動資金の違い

義援金

被災された方々へ
公平に金銭で支援

赤十字活動資金

みなさまのご支援により
日本赤十字社が
速やかにサービスで支援



活動資金についてはこちらをご確認ください
<https://donate.jrc.or.jp/lp/>



日赤 国内義援金 検索 詳しくは日赤のホームページへ →



**戦後75年
SPECIAL**

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で活動に参加する支援者がいます。
全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にご紹介します。

ヒロシマでの被爆 私を救ったDr.ジュノーの薬

**母との別れ、被爆、
それでも生き残れた私**

1945年8月6日。当時、小学校3年生、9歳になったばかりの私は、広島の中心地から40キロほど離れた祖父母の家で縁故疎開をしていました。午前8時15分、その瞬間、広島市方向で「とんでもない何かが起きた」ことはその場所からも分かりました。

「とにかく行ってみるしかない！」そう言って、父や母のいる広島へと歩いて向かう祖父に、私もついていきました。たどり着いた広島は焼け野原。太陽と地の熱気、言葉にできない悲惨な光景を目の当たりにしました。祖父と歩き回ってみると、仕事で下関に行っていて無事だった父と再会。旧広島一中のグラウンドで、兵隊さんが遺体を山と積んでどんどん焼いている場所に差し掛かったとき、火に投げ込まれる寸前の母の遺体が目に留まりました。ぎりぎりのところで母を引き取ることができましたが、どうすることもできません。そこへ偶然、母の知人が通り掛かり、自分の家族を焼くために持っていた油の缶を譲ってくれました。父は油を母に振り掛け、ポケットからマッチを取り出し、小さく念仏を唱えながら火を付けました。

父の両親である祖父母の家で疎開生活を始めから原爆投下までの約4ヶ月間、母に会えたのは、私の誕生日、6月16日の前後2日間だけ。母が会いに来てくれたことが、私には何よりもうれしかった。3日後、学校にいる間も母がいるものと思いつくわくわくし、飛びはねるようにして家に帰ったら、母はもう居ませんでした。別れがつらくなるからと、私が学校に行っている間に村を出たのです。私はけっして声を上げて泣きませんでしたが、従弟たちと一緒にポンプで水を汲み、風呂に入れる作業をしている間中、あふれる涙を止めることができませんでした。それが母と過ごした最後の思い出です。



8月6日、チャリティーコンサートに参加する西さん(写真中央／2015年)

腱炎の激痛から開放してくれた 父のペニシリン

私は国から被爆者健康手帳を交付されています。原爆投下から2週間以内に爆心地近くに入った人に渡される「入市被爆者」として。戦後の栄養失調や被爆の影響もあってか、父と二人の生活が始まってしばらくすると、足の腱が熱を持って腫れ上がり、激痛で立てなくなりました。病院も薬もない中で、看護婦をしていた親類のおばさんから「海外の新薬があるらしい。それなら、あっちゃんのコレを治せる！」と聞くと、父はある日どこからペニシリンを持ってきました。戦後間もない頃、普通の日本人には入手の難しい薬でした。父が相当な財産をなげうって、闇屋さんから手に入ってくれたのでしょう。そのペニシリンのおかげで腱炎は快癒、その後は結核にもかかりましたが、私は生き残ることができました。

戦後30余年たち、近所に住むジャーナリスト、大佐古一郎※さんの本「ドクター・ジュノー 武器なき勇者」を読む機会がありました。原爆投下直後に広島に足を踏み入れ、世界に広島の惨状を伝え、しぶるアメリカ軍と交渉し15トンもの医薬品を入手、広島と長崎の被爆地に送り届けた方がいた。赤十字国際委員会の医者、マルセル・ジュノー博士。そしてジュノー博士が広島に送った薬には、ペニシリンも含まれていた…。私は、そこに書かれていることに驚愕しました。私を救ってくれたのは、ジュノー博士の薬だったのです！もう一つ、その本を読んで衝撃を受けたことがあります。それはジュノー博士が、あの「赤十字」の人であった、ということです。

幼い頃、上海の領事館で働く叔父からの荷物を受け取りに、母と一緒に呉や宇品の港へ行きました。叔父の荷物は大きな赤十字のマークを付けた病院船に乗って届きました。他の船は沈められてしまふのに赤十字の船は攻撃されません。その船からは手足を失った兵隊さんが病院に運ばれていきました。広島には、立派な赤十字の病院と、白く美しい建物の支部もありました。それが子どもの頃に見た「赤十字」の原風景です。敵から攻撃されず、傷ついた人をどんどん受け入れる。「これが赤十字の世界だ」と、子ども心に感じていたのを、ジュノー博士の本を読んで鮮明に思い出したのです。



寄付での支援者

西 敦子 (にし・あつこ)さん

広島市西区／84歳

赤十字とジュノー博士への感謝 数十年間、続いている寄付活動

ジュノー博士と赤十字に心の底から感謝の念が湧いてきた私は、毎年8月6日に行われる灯籠流しの会場で、オーケストラの演奏にコラスを付け、演奏と歌を聞く方に寄付を呼び掛ける活動を始めました。オーケストラの演奏費など一切取らない無料の音楽会です。コラスには私も参加しています。集まった募金は日赤の広島県支部へも寄付しています。さらに、毎年秋に地元の小学校へ献血バスが来てくださるので、仲間も誘って、献血の呼び掛けも行っています。

今年は事情があり、夏のチャリティーコンサートを開催できませんが、来年、そしてその先も、赤十字への感謝の寄付、そして、赤十字のある世界を続けてもらうための寄付は、できるだけ長く、続けていきたいと考えています。

※広島の被爆者であり、中国新聞の記者としてスイスまで取材に行き、ジュノー博士の報告書を発掘したジャーナリスト

「ヒロシマの恩人」Dr. ジュノー



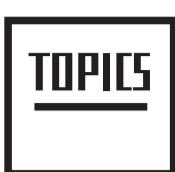
マルセル・ジュノー博士
© ICRC

広島の原爆投下後、スイス人のマルセル・ジュノー博士は赤十字国際委員会(ICRC)の駐日主席代表として来日。原爆被害の惨状を知ると直ちにGHQのマッカーサー最高司令官に援助を交渉し、15トンもの医薬品を米軍から調達、自らも

広島に入り、被害調査と治療に携わりました。提供された医薬品の中には、当時入手困難だった「ペニシリン」「ブドウ糖注射液」なども含まれています。帰国後は世界へ「原子爆弾による惨状とその非人道性」を訴えました。



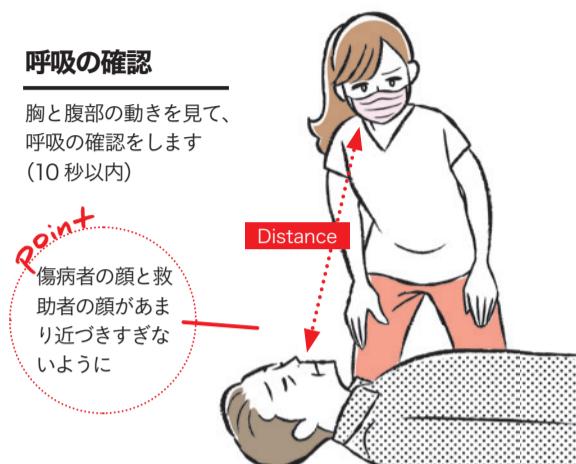
広島平和記念公園内にあるマルセル・ジュノー博士記念碑。被爆者救護に人道的立場から尽力した功績をたたえ建立された



ウイルスの感染が不安な状況下で、もしも目の前で人が倒れたら…国が指針を発表しました。 もしものときは!? コロナ禍における一次救命処置

呼吸の確認

胸と腹部の動きを見て、呼吸の確認をします
(10秒以内)



胸骨圧迫

胸が約5cm沈む程度の強さで、1分間に100~120回のテンポで押します

Point
ハンカチやタオルなどがあれば、傷病者の鼻と口にかぶせる



人工呼吸は行わない



救急隊に引き継いだあとは、速やかにせっけんと流水で手と顔を十分に洗います。傷病者の鼻と口にかぶせたハンカチやタオルなどは、直接触れないようにして廃棄するのが望ましいです。

傷病者と救助者、すべての人に「感染防止」対策を！

今年5月、厚生労働省より「新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえた市民による救急蘇生法について（指針）」が示されました。コロナ禍でも人の命を救うために、できる限り感染防止に努めながら一次救命処置を実施していただけるよう、指針をお伝えします。

基本的な考え方

心肺蘇生にはエアロゾル（ウイルスなどを含む微粒子が浮遊した空気）を発生させる可能性があるため、すべての心停止傷病者に感染の疑いがあるものとして対応しましょう。

一次救命処置の具体的手順

①安全確認 ②反応（意識）を確認。顔を近づけすぎないこと ③119番通報とAEDの手配 ④呼吸を観察 ⑤胸骨圧迫。エアロゾルの飛散を防ぐため、開始前にハンカチやタオルなどを傷病者の鼻と口にかぶせる。マスクや衣服などでも代用できます ⑥人工呼吸は行わず、1分間に100~120回のテンポで胸骨圧迫を30回以上続けます（子どもへの人工呼吸は、その必要性が比較的高く、技術と意思がある場合に実施）。 ⑦AEDを使用する ⑧心肺蘇生を続ける

ポイントは、傷病者に顔を近づけすぎること、人工呼吸ができる場合でも成人では行わないことです。万が一の事態に遭遇しても、以上のことを忘れずに落ち着いて対応しましょう。

※この指針は、新しい知見や感染の広がりなどによって変更される場合があります。また、本記事の内容は、「赤十字救急法」の講習内容の変更をお知らせするものではありません。

3.11 あれから10年を生きて

第5回

東日本大震災の発生から2021年3月で10年。
来年の3月号まで「3.11」から人生を変えた人々の物語を毎月連載します。

3月11日午後3時半。鈍色の巨大な津波が川を遡上し、石巻をのみ込んでいく様を丘の上に建つ北上中学校から目撃しました。あの数時間で、石巻市内だけでも3200人以上の方が亡くなり、400人以上が今も行方不明のままです。丘の下、川を挟んで対岸には大川小学校があり、そこでは全校生徒の7割が犠牲になりました。

同年4月に私は住吉中学校へ異動。それからの1年はあっという間でしたが、翌2012年、仮設の生活環境は手狭で、学校運営も他校に分散して教室を借りる状況が長く続き、子どもたちも教師も、多様なストレスをためていました。日赤から北海道で開催されるサマーキャンプの知らせが届いたのは、まさにその重く沈む日々の最中です。私は青少年赤十字（JRC）の指導者として、夏休み中に3泊4日で開催されるキャンプへの参加を生徒たちに勧めました。参加できるのは東北の被災3県の小中学生で、合計約3600人。参加費用は、東日本大震災で集まった海外からの寄付金で全て賄われました。応募者多数の中、私の学校からは数人の子が当選しました。驚いたのは夏休み後の2学期初日です。参加した女子生徒がリーフレットや資料を持ってきて、どれだけキャンプが楽しかったか、私に向かって機関銃のようにまくし立てました。あまりの興奮ぶりに圧倒され興味をそそられた私は、次の年、運営スタッフとしての協力要請が日赤宮城県支部から来ると、二つ返事で引き受けたのです。

2013年のサマーキャンプは7月22日から8月18日の期間、全9回。私が参加したのはそのうちの第5期、わずか4日半です。しかし、日々のこととは鮮明に記憶に焼き付いています。一言で説明すると、赤十字のサマーキャンプは、たくさんの大人たちが被災地の子どもたちを感動させようと本気で挑んだ“心の祭り”です。2013年の参加生徒は

子どもたちに感動を！ サマーキャンプの挑戦

日赤宮城県支部 賛助奉仕団
元石巻市立住吉中学校教諭

かどおのたけし
上遠野健さん

約2160人。それに対して、キャンプの運営スタッフは延べ700人近く。JRCの教師だけでなく、全国から青年奉仕団やボランティアが参加していました。感心したのは、「すべては子どもたちの笑顔のために」を合言葉に、考え抜いたプログラム構成が用意されていたこと。スタッフは前期のチームの最終日、一番気持ちが高まっているところから参加し、その熱量を引き継いで自分たちのワークショップを始めます。そして子どもが打ち解けて仲間になれる工夫を凝らします。さらに、大切な役目を担ったのは、若いお兄さん・お姉さんのボランティアたち。オフの時間や就寝前、彼らが子どもたちの話を真剣に聞く姿を至る所で見かけました。そんなふうに絆が深まるので、最終日、子どもたちは若いボランティアスタッフとの別れを惜しみ、中には帰りのバスに乗ろうとしない子も。子どもたちはバスの中で手を振り続け、それを見送るスタッフたちも、バスが見えなくなるまで手を振っていました。その姿に私も胸が熱くなりました。

あのサマーキャンプを体験した子どもは2年間で約5760人。その全員に、希望を与えられたに違いない、と確信しています。そして関わった私たちも、感動を与えてもらいました。



サマーキャンプ最終日、第5期のスタッフと（前列左端が上遠野さん）



ばんだい号墜落の50回忌 「悔いなし」最後の清掃奉仕

7月2日、七飯町赤十字奉仕団は、1971年7月3日に函館市郊外七飯町の山地に墜落した「ばんだい号」の犠牲者をしのび、慰靈碑の清掃を行いました。事故翌年から行われてきましたが、団員の高齢化に伴い事故から50年となる節目として今年で活動を終了。降りしきる雨の中、団員ら16人が周辺の草を刈り、慰靈碑に花を手向けて、「悔いなく終えられるね」と互いに言葉を掛け合いました。

団員は「地道な活動を細く長く続けられて良かった」と振り返った



訪れたスーパーで人命救助 「救急法指導員」ご夫妻が活躍

秋田県赤十字救急法奉仕団員の土井雅之さん・智恵子さんご夫妻に、日本赤十字社から「人命救助表彰状」が贈呈されました。秋田県で赤十字救急法の指導員としても活動する2人は、同県湯沢市のスーパーに買い物で訪れた際、駐車場で倒れている男性を発見。すぐに救命処置を実施しました。救急車で搬送された男性は心不全と診断されましたが、その後無事に回復しました。



救急車を呼び、交代で胸骨圧迫、AEDで救命処置をした土井さんご夫妻



小児科病棟で映画の上映会 出来たてポップコーンも！

7月2日、成田赤十字病院の小児科病棟で映画上映会が開催されました。この上映会はNPO法人の協力のもと、同院の多職種からなる小児科レクチームが準備を進め、実現しました。当日は長期入院中の子どもたちや家族に楽しい時間を過ごしてもらおうと、本物の映画館さながらの出来たてのポップコーンも提供。室内にはおいしそうな香りとたくさんの笑顔があふれました。



同院ではこの映画上映会を定期的に続けていく予定



「新しい生活様式」で変わる? 啓発動画で熱中症予防を

日赤石川県支部では、コロナ禍で求められる新しい生活様式に即した、熱中症の予防・手当で啓発動画をホームページで公開しました。これは環境省・厚生労働省が発表した「令和2年度の熱中症予防行動」と、赤十字救急法で教える両ポイントをわかりやすく1つにまとめたもの。新型コロナウイルス感染症関連の啓発動画は今回が第2弾で、前回の動画はYouTubeでの視聴回数が2万6000回に上りました。



一般の方に役立つ動画コンテンツを今後も増やしていく

常任理事会報告

令和2年7月17日に本社において開催予定だった常任理事会は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、開催中止となりました。そのため、文書審議をもってこれに代え、その結果は下記のとおりです。

- 1 資金の借入について
(日本赤十字社創立80周年記念事業)
- 2 理事会に付議する事項について
(一般会計歳入歳出予算にかかる予算の補正)
- 3 理事会および第96回代議員会に付議する事項について
(役員の選出、令和元年度事業報告および収支決算の承認)

審議の結果、資金の借入については原案のとおり議決され、理事会に付議する事項、理事会および第96回代議員会に付議する事項については、いずれも原案のとおり付議することが承認されました。

全国

コロナ禍だからこそ…助け合いの精神を忘れることなく“献血”に協力を ソーシャルディスタンスを保つ形での献血協力も全国各地で拡大中

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて献血ルームに足を運ぶ人も少くなり、保存期間の短い血液が不足する懸念が続く中、コロナ禍の今だからこそという思いで献血活動に取り組む動きも全国各地で広がっています。

6月20日、徳島県で献血への協力を申し出たのは、「みなぎるパワーで社会に貢献したい」という四国大学の女子7人制ラグビー部の部員7人。また、同部が訪れた献血ルームでは、毎年、特別支援学校の生徒が育てた花を献血者に手渡しするイベントも行ってきましたが今年は断念。代わりに献血者からの感謝のメッセージカードが特別支援学校の生徒たちに贈呈されました。

宮崎県では、6月下旬、JRC加盟の3つの中学校で美術部や美術同好会、生徒会の生徒たちが献血協力を呼び掛ける絵画や書を作成しました。

千葉県では、6月30日、海上自衛隊下総航空基地を千葉県赤十字血液センターの献血バスが訪れ、自衛隊員など152人の方から献血に協力いただきました。



女子ラグビー部は出場予定だった大会がコロナの影響で中止に



7月の「愛の血液助け合い運動月間」期間中、役場や市役所に展示



徳島県赤十字血液センターの看護師がメッセージを贈呈



幹部赤十字も協力! 下総航空基地では3月も155人が献血した

大阪府

こころの健康、介護の悩み… オンラインや電話で相談を

コロナ禍により各種講習が中止になった5月、日赤大阪府支部では2つの相談窓口がスタート。1つは「こころの健康相談」で、こころのケア活動の指導者がコロナ禍での不安や悩みに耳を傾け、アドバイスを行っています。もう1つは「高齢者の家庭介護相談」。通常の介護サービスが受けられずお困りの方に対して、健康生活支援講習指導員が実技指導などを行っています。



「こころの健康相談」では大阪赤十字病院の臨床心理士もサポート

全国

新型コロナウイルスの感染拡大で大きく変わる、私たちの生活と社会 頑張る人々を応援するNHKの「みんなでエール」プロジェクトに日赤も参加



関連番組の紹介

- 8月8日(土)【総合】午後7:30
「ライブ・エール ～今こそ音楽でエールを～」
- 8月10日(月)、11日(火)【総合】午前8:15
「#高校最後の夏だから～球児たちの晴れ舞台～(仮)」
- 毎週水曜「みんなのうた」【総合】午後3:55
「パブリカ みんなでエール」
- 8月14日、21日(金)【Eテレ】午前9:00
「FoorinとおどろLIVE」

<http://campaign.jrc.or.jp/minna/>

「赤十字を応援！」プレゼント A

別所哲也さん 俳優

トートバッグ or
サコッシュ(ミニポーチ)

各 1名さまに



ショートフィルムで世界とつながり、未来を築こう!

毎年6月に東京で開催される国際映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア(SSFF & ASIA)」。今年は新型コロナウイルスの影響により9月に延期となりました。赤十字のサポートを受けた「戦争と生きる力プログラム」も実施します。私たちはこのコロナ禍で、映画を劇場で見る喜びも、作品を作る幸福も奪われかけました。今回、映画祭に作品を届けることのできない映像作家もいるなか、それでも映画を通じて世界はつながり、未来を一緒に築き上げることができる! 信じて、開催に向けた調整を続けました。世界中の人々を苦しめている事態が一日も早く終息することを願い、そして皆さんにお会いできるよう知恵を絞り、映画祭の幕が上がりります!

べっしょ、てつや◎映画・ドラマ・舞台・ラジオなどで幅広く活躍中。1999年より、日本発の国際短編映画祭「SSFF & ASIA」を主宰し、文化庁長官表彰を受賞。



●「戦争と生きる力 プログラム」 supported by 赤十字

赤十字国際委員会がサポートする同プログラムでは、難民が国境を越える厳しさを描いたデンマークのアニメーション作品「Wastasme」などを上映。一部はオンラインでも公開!

<https://www.shortshorts.org/2020>

上記プレゼントA希望者は、右記
WEBサイトにてご応募ください。



インターネット
アクセス

赤十字ニュース プрезゼント 検索
www.jrc.or.jp/publication/news/

ここから
応募
できます

「赤十字を応援！」プレゼント B

パートナー企業紹介 vol.5

アサヒグループホールディングス株式会社

上記プレゼントB希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。
①お名前 ②郵便番号・ご住所
③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS8月号を手にされた場所(例/献血ルーム) ⑥8月号に関するご意見・ご感想

郵送／〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3
日本赤十字社 広報室 赤十字NEWS 8月号プレゼント係
FAX / 03-6679-0785 WEB応募／右の2次元バーコードからご応募ください。
8月31日(月)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

アサヒグループホールディングス株式会社

アサヒグループホールディングス株式会社



写真左から、今年、発売136周年を迎える国民的炭酸飲料「三ツ矢サイダー」と、乳酸菌と酵母による発酵が生みだす「カルピス」のおいしさを手軽に楽しめる「カルピスウォーター」。

※写真はイメージです。

三ツ矢サイダー or
カルピスウォーター
(500ml入りペットボトル×24本入)
いずれかお好きな方を1ケース

3名さまに

グループ事業のノウハウを生かした、社会貢献活動を幅広く展開



医療従事者への感謝の思いを込めて。無償で高濃度エタノール(写真中央の1斗缶)を製造したニッカウヰスキー柏工場の社員

こちらから
応募
できます



WORLD NEWS

欧洲での新型コロナウイルスへの対応



イタリア



© Michele Squillantini / Italian Red Cross

感染ピーク時にホームレスの健康調査を行なうイタリア赤十字社ボランティア看護師

新型コロナ禍の弱者を支える、 イタリア赤十字社のボランティア

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が依然として蔓延しているイタリア。
人道支援の最前線で活動するイタリア赤十字社からのリポートです。

欧洲でも感染者数の多いイタリア 一時は死者が世界最多となり…

COVID-19の感染は、世界中で今もなお拡大しており、予断を許さない状況です。イタリアは感染者数が24万3736人、死者数が3万5017人を超える、一時は死者数が世界最多となり、医療崩壊の危機に見舞われるなど、欧洲の中でも被害が大きい国のです。現地のイタリア赤十字社(以下、イタリア赤)はCOVID-19感染の発生当初から最前線で活動しており、その中には24時間体制で1日平均600件にも及ぶ救急搬送も含まれます。

※7月17日時点。厚生労働省の公表資料より

COVID-19関連の活動に 4万4000人以上のボランティアが参加

イタリア赤のCOVID-19への対応で重要な役割を担っているのがボランティアです。これまでに4万4000人以上のボランティアがCOVID-19関連の支援事業に参加し、空港での検疫、ホームレスや貧しい人々の健康調査、非常事態宣言下での支援物資の配布、電話でのこころのケアや多言語での情報提供

支援などを行なってきました。

IT系企業で働く22歳のボランティア、ルドヴィカさんもその1人。彼女はイタリア赤の施設で受付を担当し、陽性患者と最初に対面する業務を務めています。ルドヴィカさんの胸を締め付けるのは苦しむ患者たちの姿だけではありません。時には陽性で隔離中の夫に会わせてほしいという80歳の女性からの悲痛な声に耳を傾けることも。ウイルスがもたらす受け入れがたい出来事、そして感染への不安に直面しながらも、ルドヴィカさんはマスクと手袋を着けた姿で施設の受付に立ち、患者とその家族たちを支え続けています。



マスク、手袋を着け、受付に立つルドヴィカさん



玄関先で医薬品を渡すマルコさん



また、弁護士のマルコさんもイタリア赤のボランティアとして支援活動に従事。外出が困難で薬局に行けない人々のために、医薬品を自宅へ届けるのが彼の役目です。マルコさんは「私たちが想像力を働かせ、相手の苦しみに思いを寄せることができれば、より良い世界へ変えていける」と、ボランティア活動に力を注ぐ日々を送っています。

ルドヴィカさん、マルコさんの動画は
こちらからご覧いただけます。
(動画には英語字幕がついていますが
YouTubeでは自動で日本語字幕も
表示可能です)



数字で見えた! 世界で生かされる皆さまのご支援

世界中の災害や紛争から、人々の命と健康を守る日赤の国際活動。
皆さまの寄付がどのように世界で役立てられているのかを、
数字でわかりやすくお伝えします。

ルワンダ、ブルンジで感染症の知識を啓発できた人数*

**11万
6500
人**

※両国でモバイルシネマ、モバイルラジオを通じて啓発を行った対象となる人数の合計



村々を移動するルワンダ赤十字社モバイルラジオ。大音量で情報を流しながら走る

日赤は東アフリカ地域での保健強化事業を支援しています。2019年度にはルワンダとブルンジの赤十字ボランティアを主体とした、モバイルシネマと呼ばれる移動式映画館とモバイルラジオ(スピーカーを積んだ三輪バイクで村々を回る)の啓発活動を実施。加えて、両国ともにラジオ放送を用いて、国の隅々まで何百万人もの国民にメッセージを届け、自然災害への備え、栄養改善、感染症対策といった知識を村民に提供することができました。

2020年3月、ルワンダ国内で新型コロナウイルスの感染が発生したため、ルワンダ赤十字社は予防策を伝えるモバイルラジオの放送数を増やしました。インターネットやテレビからの情報が得られない住民にとって、ラジオ放送から得られる知識は命と健康を守るために大切なよりどころとなっています。